

# 名戸ヶ谷ビオトープを育てる会だより

第7号

2004年6月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://homepage3.nifty.com/biotope/index.html>

発行責任者： 篠崎 将

Tel/Fax: 04-7173-6353

## 二年目の田植え無事終了

### 水田稲作部会

田植えの終わった田圃の上をツバメが飛んでいます。巢作りの泥運びかな。それとも餌採りかな。今年も無事、田植えが終了しました。4月24日に耕耘機で荒代掻きを行い、27日には、名戸ヶ谷小学校の生徒たちが代掻きに挑戦しました。5月5日に最終代掻き、均しをして、11日に生徒たちが田植えをしてくれました。今年は5年生と昨年がんばってくれた6年生の120名と大勢でしたが、昨年の経験が生きて、きれいに植えてくれました。15日は天気にも恵まれ、会員のみなさんで残りの田植えを終了させました。昔ながらの均し板や、おさ(苗を植える位置の線引き道具)を使ったのは30数年ぶりです。(耕耘機や生徒の指導は増田さんに協力して頂きました。ありがとうございました。)田圃には、オタマジャクシ、ヒメタニシ、ミミズ、ミズスマシ、などの生きものが一杯で、鴨やサギ、ツバメのよい餌場にもなっているようです。今年は昨年以上の収穫を目指してがんばりましょう。(小笠原 智)



名戸ヶ谷小5、6年生田植え風景

苗を植えるときに足がもぐってびっくりしたけれど、上手にできました。  
5年 蒲生郷乃

一生懸命に植えました。本当にたいへんだなあと思いました。  
5年 鈴木広美

子どもたちと良い経験をしました。収穫まで頑張ります  
5年担任 櫻庭 真由美

### 不耕起稲作部会

不耕起稲作部会の水田は2年目の田植えを済ませ、少し頼りなく水面に自立しています。ザリガニをはじめ多くの生きものが忙しく活動しています。

5月10日、午後、佐原市藤崎農園へ苗を引き取りに行きました。午前中は農林関係の衆議院の方など、多くの方が見学と岩澤先生の話をお聞きにきていました。私たちにも岩澤先生は情熱的に話され、つい長居をしました。千葉県は印旛沼周辺の水田に不耕起栽培を考えているようです。



藤崎農園の苗の前に岩澤先生と才川さん

## 不耕起稲作部会（続）

**田植え：** 5月22日、午前9時から田植えを開始し12時40分に終了しました。時折小雨・気温14と厳しい中で休み無しで頑張りました。

**不耕起栽培の2年目です：** 昨年は開墾・草の根除去などで不耕起とは言い難く、今年がいよいよ本番です。冬季湛水・不耕起で雑草が少なく、生きもの豊かな水田へ期待しましょう。尚、開墾した水田の番号は「1-1」とし、他の水田番号はそのままとします。



会員外の若い女性も参加して初体験

**畦直し：** 5月30日、畦直しを行いました。真夏を思わせる炎天下の作業でした。終了後、ホタル部会と合同で打ち上げを楽しみました。(才川 寿磨)



### ニッカ祭りに展示参加

4月29日、**ホタル部会**はニッカ祭りにパネル展示で参加し、カワニナを実物展示しました。1万6000人を遙かに超える大勢の参加者のみなさんに名戸ヶ谷ビオトープを紹介するよい機会となりました。見学者の中からは「ホタルの幼虫が見たかった」との声も多く聞かれました。(松清 智洋)



不耕起栽培と慣行栽培の作業暦比較

生物資源型農業(不耕起・冬季湛水)	時期	慣行農業(参考)
冬季湛水 ミネラル・米ぬか散布	稲刈り後	秋起こし
自家採種(塩水選1.15)	冬	寒起こし
浸種(10℃以下) 催芽(20~25℃・酵素処理) 播種(直列播き・70g) 発芽(20~25℃)	早春 3月~	春起こし
低温育苗(初期21℃、中期昼は20℃、夜は10℃、2葉展開後は水田代またはプール)	4月中旬	購入種子(塩水選1.13殺菌剤粉衣)
くず大豆散布 5.5葉の成苗 田植え(坪50~60株・2.5本植え) 徐々に深水管理 必要であれば拾い草・手除草	5月	浸種(10~20℃)・種子消毒 催芽(32℃) 播種(120~180g)殺菌剤入 発芽(32℃) 加温育苗(25℃以上) 荒代かき 元肥散布(化学肥料使用) 2.5葉の稚苗 本代かき・間断湛水 苗に殺虫剤散布 田植え(坪60~70株・5~10本植え) 活着肥・分げつ肥(化学肥料使用) 除草剤散布・害虫防除
花水(深水続行) 必要な場合は短期の中干し	6月	殺菌剤散布
深水続行 冬季湛水水田は早めの落水	7月	中干し 穂肥(化学肥料使用)
必要な場合は穂肥 普通の不耕起栽培は稲刈り10日前落水	8月	穂肥(化学肥料使用) 殺菌殺虫混合剤散布 花水灌水 殺菌殺虫混合剤散布 倒伏軽減剤使用
稲刈り	8月下旬~ 10月	稲刈り

### お知らせ みんなでふれよう！ 柏の生きもの ~生きもの展示とホタルのおはなし~

日時：2004年7月17日(土)12時開場・2時開演  
講師：ホタル研究家 小俣軍平先生  
場所：さわやかちば県民プラザ大研修室(柏の葉公園内)  
主催：柏市、名戸ヶ谷ビオトープを育てる会、  
柏ホタルの会等、市内自然保護団体の共催

## 生きもの部会

3月より毎月第3土曜日を生きもの部会の例会としています。例会では、植物観察会、ピオトープの清掃・草刈りなど行っています。

4月の植物観察会では会員以外の方々の参加もあり、田植え前の水田雑草を楽しみました。また、千葉県の絶滅危惧種に指定されたタチゲヒメビイゴとヒメウス(写真右)の花を観察出来ました。

植物観察会の途中では、ニホンアカガエルやドジョウなどの生きものも見られました。これからも、植物以外の生きものにも観察の目をもっと注ぎたいと考えています。例会の後で、Bゾーンの北側のガマなどの大型植物の間引きを少しずつ実施しています。今後どのように管理したらよいか、皆さんのご意見も伺ってゆきたいと思っています。(佐々木光正)



ヒメウス

## 千葉県北総地域レッドデータブック掲載種

(資料提供 : 篠崎 将)

	絶滅種	絶滅危惧種	名戸ヶ谷ピオトープで観察された種
昆虫類	7	137	オアオイトトンボ、ハクホトシ
鳥類	13	85	ダイサギ、チュウサギ、コサギ、カワセミ、オヨシキリ、ツバメ
哺乳類	2	8	
爬虫類		11	ヤマカガシ、アオダイショウ
両生類		7	ニホンアカガエル、シレーゲルアオガエル
魚類		15	モツゴ
貝類	3	39	
節足動物	2	13	スジエビ、コガネモ
植物	3	347	タチゲヒメビイゴ、ヒメウス
	30	662	17

2004/05/15 現在

上記絶滅危惧種については、観察にとどめ、採集しないようにしましょう

## ホタル部会

2月から毎月作業が続いています。5月30(日)約10名近い部会員の参加を得て、ホタルのせせらぎに遮光ネットを張りました。(写真右)



作業終了後、畦直し作業を終えた不耕起部会員と合同で、セリ、ハルジオン、シロツメクサ等の野草や釣り上げたザリガニを天ぷらに揚げ、ビールで乾杯。炎天下の作業で乾いた喉を潤しました。「おっ、意外といけるねえ」「エビのようだ!」。ザリガニ釣りに来ていた小学生も恐る恐る口に入れて、思わず叫ぶ。「あっ、オイシイ!」

散策で通りがかった若いご夫婦にもすすめたところ、美味しそうにたべていました。打ち上げの後で、持参した発泡スチロールの中のカワニナについての解説をし、数名の人がカワニナを小分けして持ち帰りました。また、来月から作業の後に懇親会を計画します。

ふらっと参加される方も大歓迎です。作業をしたり、勉強会をしたり、お互いに親交を深めたり・・・そんな活動を毎月行いたいと考えています。奮ってご参加ください。(松本 徳重)



## 花だより

佐々木光正



田植えが終わると、**ガマ**類の季節となります。6月初旬には**ガマ**（写真左）月末には**ヒメガマ**、7月後半には**コガマ**、と順次咲きます。茎の先につく茶色の穂が花です。ガマの花は花弁がなく、オシベとメシベだけが密集して穂状になって咲いています。このガマ以外にも大型の草として**ウキヤガラ**、**クサヨシ**が見られます。7月に入ると**セリ**の白い花がピオトープのあちこちに見られます。暫くすると水田の縁にピンク色の**ミソハギ**の花が咲き始めます。セリもミソハギも昔から夏の田圃の花として愛でられてきたものです。湿地の周囲の法面には**ヒルガオ**などの夏草が見られますが、その中に咲く淡紅色の**ネジバナ**を探してください。



ネジバナ

湿地の周囲の法面には**ヒルガオ**などの夏草が見られますが、その中に咲く淡紅色の**ネジバナ**を探してください。

**ネジバナ**（写真右）はれっきとしたランの一種です。ピオトープでは湿地の中にも咲いているのが見られます。7月17日と8月21日は**植物観察の日**です。10時にお待ちしています。

藪崎恒雄・藪崎香氏 談（文芸資料館にて）

## 名戸ヶ谷の昔

ピオトープから新柏駅に向かって徒歩約5分。法林寺、観音堂近くに中世の名主（ミョウシュ、土豪）の名残を思わせる屋敷構え、環堀作り、長屋門に囲まれた**藪崎弥惣治**家の当主、**藪崎恒雄**氏を訪ねました。室町中期から20数代目にあたる**藪崎家**本家の現当主恒雄氏は大町桂月の研究者であり、中世史研究家の**藪崎香**氏と一緒に屋敷内の文芸資料館で出迎えてくれました。両氏は「名戸ヶ谷の歴史散歩」の共著者でもあり、詳細なお話は次号以降にテーマ別に連載します。



名戸ヶ谷から今の新柏駅に至る土地区画整理事業組合がスタートしたのは、オイルショック後の昭和54年で、名戸ヶ谷病院はまだ出来ていませんでした。整理事業組合（恒雄氏が副理事長、香氏が理事）の経緯は新柏駅前の「沿革史」に記載されています。木村英夫氏が樹齢200年のクスノ木を寄贈しました。江戸時代以前の昔から名戸ヶ谷は大津川支流によって形成された肥沃な沖積層で、至る所の地下や山の縁から豊富に湧き出る「カマンボコ」と言われる湧き水を利用した水田耕作が盛んに行われてきましたが、東京オリンピックの頃にはもう水田耕作は止めていました。「こんぶくろ池」や「増尾城址公園」の湧水、それに名戸小裏の湧水も昔は水量が豊富で、手賀沼の水源地だったわけです。今の「名戸ヶ谷湧水」は本来の地下水とは違って、横に流れる「うわみず」です。土地の造成で水路も変わり、上層部の土地が切り取られたために水も温かい。現在の私の家（上郷弥惣治家）の辺りの名戸ヶ谷地域は昔は神聖な場所で、「坊谷田」「山越」「聖井戸」の名前が残っており、今はその跡に祠が残っていますが、聖井戸は深く、冷たい地下水で、終戦後まで続き、年に一回きれいに洗い出しをしたものです。小金、本土寺の大過去帳記載記録によると、530年前には既に名戸ヶ谷村の村落が形成されています。



ところで、終戦の直前には、今のつくしが丘の鉄塔通りで、B-29へ体当たりして墜落した戦闘機がありました。パイロットは21才の若者でした。増尾でも墜落。柏市全体で15機落ちています。雑木林の中の陸軍飛行場から飛び立ったものです。

（聞き書き 広報編集部）

尚、文芸資料館（写真左）開館日は：毎土・日曜日、10:00-15:00 入場 無料

編集後記： 田植えをはさんで、4～5月は各部会とも多忙な活動に明け暮れました。子育ての餌を求めて田圃の上を飛び交っていた親ツバメの中にいつの間にか雛ツバメの姿も見かけるようになりました。藪崎恒雄氏からは昔の名戸ヶ谷の古地図も頂いております。次号をお楽しみに。（広報編集 春山）